

井原市立小・中学校のあり方検討に係る
保護者アンケート調査結果

令和8年3月

井原市教育委員会

目次

I 調査概要	1
1 調査の概要	1
(1)調査の目的	1
(2)実施概要	1
(3)回収結果	1
(4)報告書の見方	1
(5)調査項目	2
II 調査結果の概要	3
III 調査結果	5
1 回答者の属性	5
(1)小・中学校区	5
(2)学年の学級数	6
(3)学級の人数	8
2 望ましい学校規模	10
(1)望ましい1学年あたりの学級数	10
(2)望ましい1学級あたりの人数	12
3 学校に求める教育環境	14
(1)どのような学校に子どもを通わせたいか	14
4 学校再編に対する考え方	15
(1)井原市における学校再編への思い	15
(2)学校再編をした方がよい理由	20
(3)学校再編をしない方がよい理由	21
(4)学校再編の検討に必要な配慮	22
5 通学方法について	23
(1)学校再編により通学距離が伸びた場合の通学方法	23

I 調査概要

1 調査の概要

(1)調査の目的

少子化に伴う、井原市の学校施設の規模や配置をはじめとする小・中学校のあり方を検討するにあたり、未就学児の保護者、小学生の保護者、中学生の保護者を対象に、学校施設の規模や配置に係る意識調査を実施した。

(2)実施概要

調査対象	ア. 未就学児の保護者 1,020 件 イ. 小学生の保護者 1,060 件 ウ. 中学生の保護者 717 件 合 計 2,797 件
調査期間	令和 8 年 1 月 30 日(金)~令和 8 年 2 月 28 日(土)
調査方法	ア. 未就学児の保護者:幼稚園児及び保育園児の保護者には各園を通じて調査票を配布し、未就園児の保護者には井原市から郵送で配布・インターネット回答 イ. 小学生の保護者:小学校を通じて調査票を配布・インターネット回答 ウ. 中学生の保護者:中学校を通じて調査票を配布・インターネット回答

(3)回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
未就学児の保護者	1,020 件	527 件	51.7%
小学生の保護者	1,060 件	782 件	73.8%
中学生の保護者	717 件	560 件	78.1%
合 計	2,797 件	1,869 件	66.8%

(4)報告書の見方

- ・本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0%とならない場合がある。
- ・図表中の「n」は number of cases の略で、回答数総数または分類別の回答者数を示す。各比率はnを 100.0%として算出している。
- ・複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- ・表内において、**上位1位**、**上位2位**、**上位3位** には色付けをしている。
- ・クロス集計の分析軸(表側項目)は不明・無回答があるため、分類ごとのn数を合計しても全体のn数と一致しないことがある。

(5)調査項目

設問		対象	回答者数
問1	小・中学校区	全保護者	1,869
問2	学年の学級数	小・中学生の保護者	1,342
問3	学級の人数	小・中学生の保護者	1,342
問4	望ましい1学年あたりの学級数	全保護者	1,869
問5	望ましい1学級あたりの人数	全保護者	1,869
問6	どのような学校に子どもを通わせたいか	全保護者	1,869
問7	井原市における学校再編への思い	全保護者	1,869
問8 -1	学校再編をした方がよい理由	学校再編をした方がよいと回答した保護者	997
問8 -2	学校再編をしない方がよい理由	学校再編をしない方がよいと回答した保護者	370
問9	学校再編の検討に必要な配慮	全保護者	1,869
問10	学校再編により通学距離が伸びた場合の通学方法	全保護者	1,869

II 調査結果の概要

本節では、学校再編の検討における主要な傾向をまとめる。

1. 望ましい学校規模

希望する1学年あたりの学級数については、未就学児・小学生の保護者では「2学級」が5割前後となっており、中学生の保護者においても「2学級」が3割台前半で最も高くなっている。また、希望する1学級あたりの人数は「21人～30人」が最も高くなっており、未就学児・小学生の保護者では5割台、中学生の保護者では7割を超えている。

これらの結果から、一定の集団規模の形成に対するニーズが全体として高いことがわかる。特に、現在1学級以下の小規模体制にある学校では、保護者が「2学級程度への規模拡大」を望む傾向が顕著であり、学校再編により適正規模を確保することが保護者の意向に沿うものであるといえる。

2. 学校に望むこと

どのような学校に子どもを通わせたいかについて、「子どもの人間関係が広がり、多様な考えに触れることができる」が未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても最も高くなっており、「いじめがなく安心して過ごせる」、「基礎的な学力を身につけることができる」、「教員の目が行き届きやすく、きめ細かな指導ができる」が続いている。

「子どもの人間関係が広がり、多様な考えに触れることができる」は、一定規模の学級・学校でこそ実現しやすい特性を有する一方、「いじめがなく安心して過ごせる」、「基礎的な学力を身につけることができる」、「教員の目が行き届きやすく、きめ細かな指導ができる」については、規模の大小にかかわらず、教育体制や支援体制の配置など学校運営全体の工夫が影響する項目である。

このことから、保護者が求める教育環境を実現するためには、学校規模の適正化と教育体制の充実を一体的に進める必要がある。

3. 学校再編に対する考え方

「学校再編をした方がよい」との意見は、未就学児・小学生の保護者では5割を超え、中学生の保護者でも4割台前半となっている。特に、小学生の保護者では現在の学級数・現在の学級の数でみてもすべての層で5割を超えている。中学生の保護者では現在の学級数が4学級以上、現在の学級の数で11人～20人の方で「学校再編をした方がよい」との意見がやや低くなっている。

学校再編をした方がよい理由は、未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても「幅広い人間関係の中で子どもたちの表現力やコミュニケーション能力、協調性、たくましさなどを育成できる」、「多様な考えや価値観に触れ、学び合い、大きな集団の中で切磋琢磨し合える環境になる」、「子どもの友達が増え、人間関係が広がる」が上位となっている。このことから、保護者は再編の意義として、子どもの成長を支える多様な学習・生活集団の確保を強く期待していることがうかがえる。

一方、学校再編をしない方がよい理由は、未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても「家から学校までの距離や通学時間が増える」、「子どもたちに教員の目が行き届きにくくなる」、「新たな人間関係により子どもの心理的負担が増える」が上位となっており、主に生活面・心理面での不安が中心であることが明らかとなった。

再編にあたり必要とされる配慮について、未就学児・小学生・中学生の保護者のいずれの層においても「子どもにとっての環境変化への対応(人間関係づくり、心身の負担軽減、いじめの未然防止や不登校の予防)」が7割を超えた。次いで、「通学(時間・距離・方法)と安全確保に関する対応」が7割前後を占めており、これらの2点が全体の重要な事項であるとうかがえる。

その他、「一人の子どもが複数回の再編を経験しないようにする」や「保護者・地域住民への十分な説明と協議」の必要性も一定程度指摘されている。

再編に対する不安は、主に通学面と心理的負担に集中していることから、丁寧な支援策の提示と説明が不可欠であることが示唆される。

4.通学方法について

学校再編により通学距離が伸びた場合の通学方法として、「スクールバス」が未就学児・小学生の保護者で8割以上、中学生の保護者で7割前半と、いずれも高い割合を示した。特に小学生以下ではスクールバスへの依存度が高く、再編後の通学手段としてスクールバスの導入は検討すべき点として挙げられる。

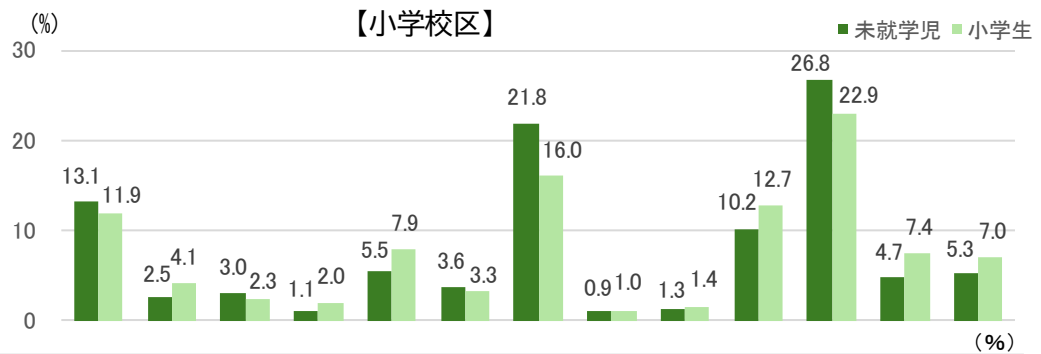
以上のとおり、本調査からは、適正規模の学校づくりに対する保護者の期待を把握できた一方で、通学や環境変化に伴う不安も一定程度存在する。学校再編を進めるにあたっては、これらの結果を踏まえ、教育環境の充実と安全・安心の確保の双方を満たす計画の立案と丁寧な情報提供が求められる。

Ⅲ 調査結果

1 回答者の属性

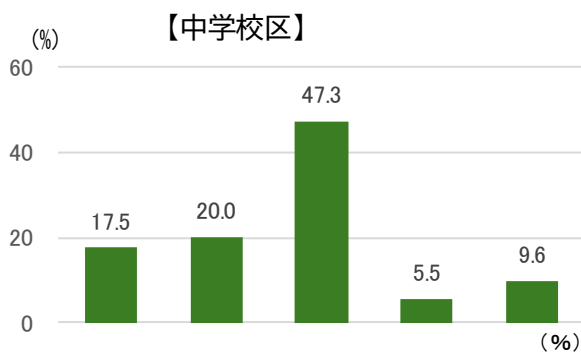
(1)小・中学校区

問1 お住まいの小・中学校区はどこですか。(各学区より選択)



	高屋小学校区	大江小学校区	稲倉小学校区	県主小学校区	木之子小学校区	荏原小学校区	西江原小学校区	野上小学校区	青野小学校区	井原小学校区	出部小学校区	美星小学校区	芳井小学校区
未就学児 n= 527	13.1	2.5	3.0	1.1	5.5	3.6	21.8	0.9	1.3	10.2	26.8	4.7	5.3
小学生 n= 782	11.9	4.1	2.3	2.0	7.9	3.3	16.0	1.0	1.4	12.7	22.9	7.4	7.0

小学校区について、未就学児、小学生ともに「出部小学校区」との回答が最も高く、次いで「西江原小学校区」、3位は未就学児は「高屋小学校区」、小学生は「井原小学校区」となっている。



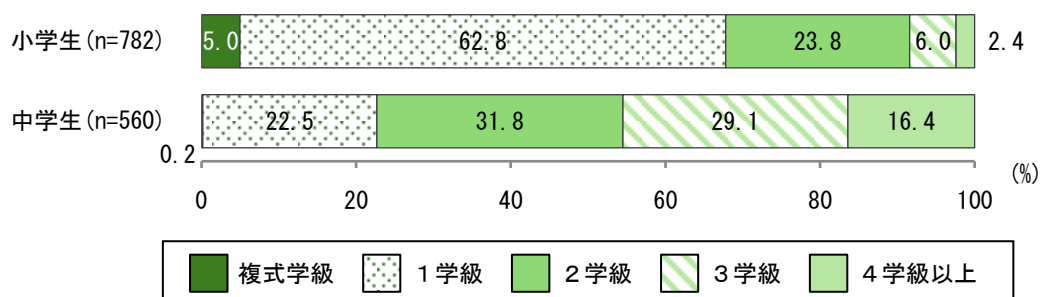
	高屋中学校区	木之子中学校区	井原中学校区	美星中学校区	芳井中学校区
中学生 n= 560	17.5	20.0	47.3	5.5	9.6

中学校区について、「井原中学校区」との回答が最も高く、次いで「木之子中学校区」、「高屋中学校区」、「芳井中学校区」、「美星中学校区」の順となっている。

(2)学年の学級数

問2 学年の学級(クラス)数はいくつですか。(1つを選択)

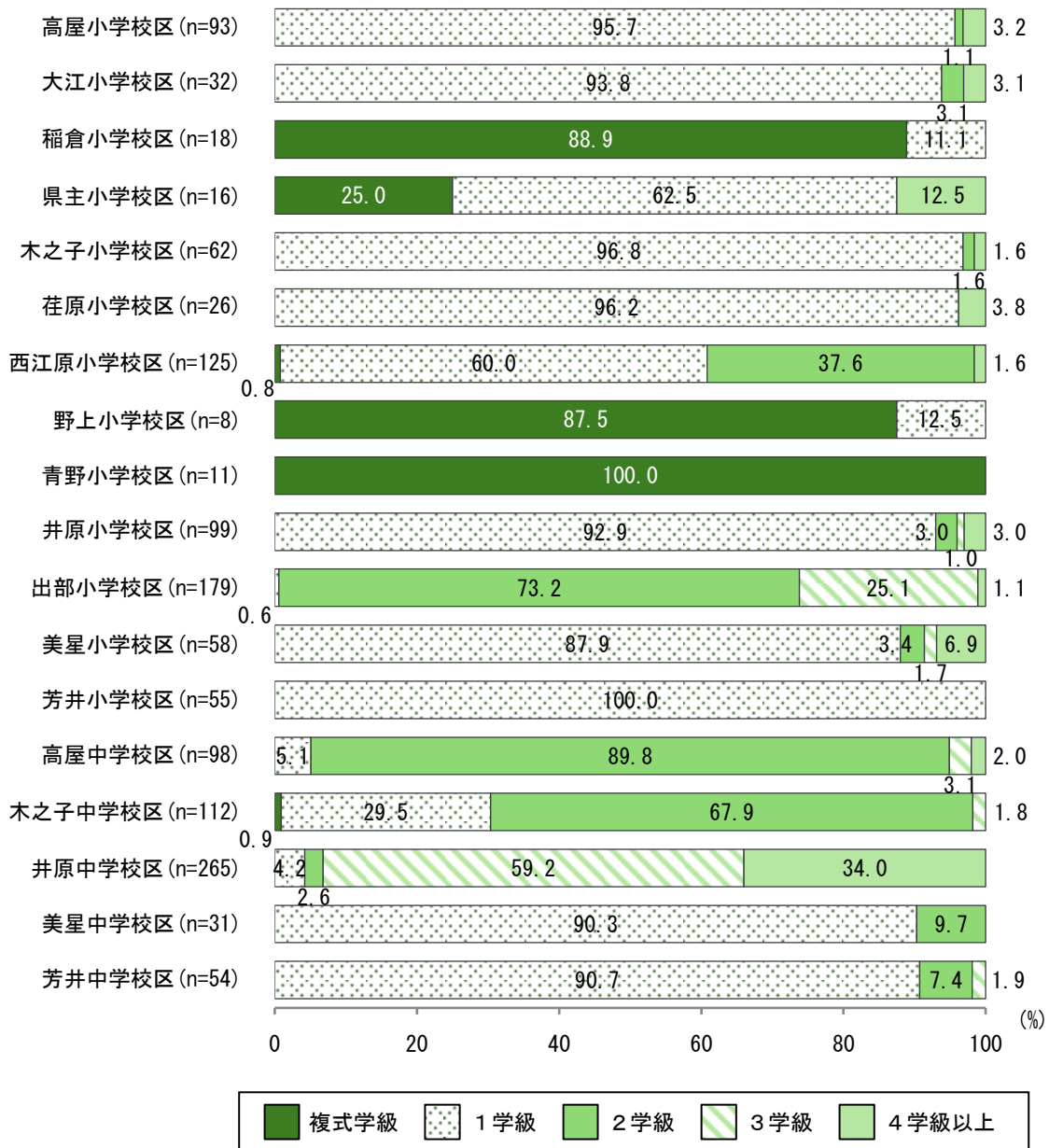
【学年の学級数】



※複式学級:複数の学年を1学年に編制した学級のこと

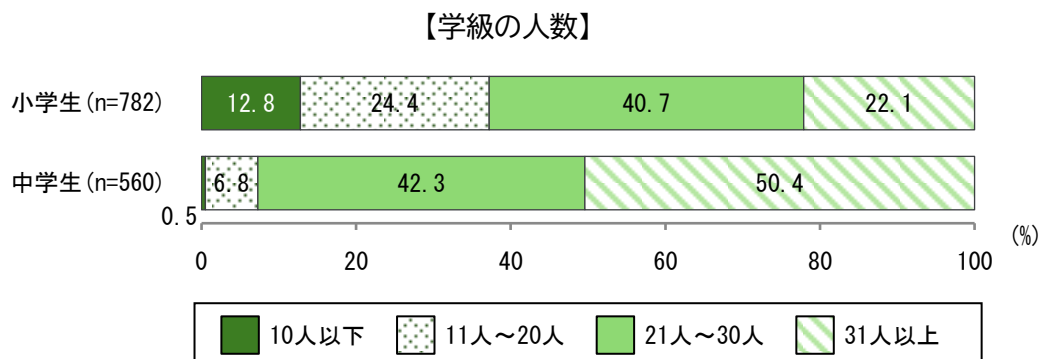
学年の学級数について、小学生では「1学級」との回答が62.8%と最も高く、次いで「2学級」(23.8%)などの順となっている。中学生では「2学級」との回答が31.8%と最も高く、次いで「3学級」(29.1%)、「1学級」(22.5%)、「4学級以上」(16.4%)のなど順となっている。

【学年の学級数(学区別)】



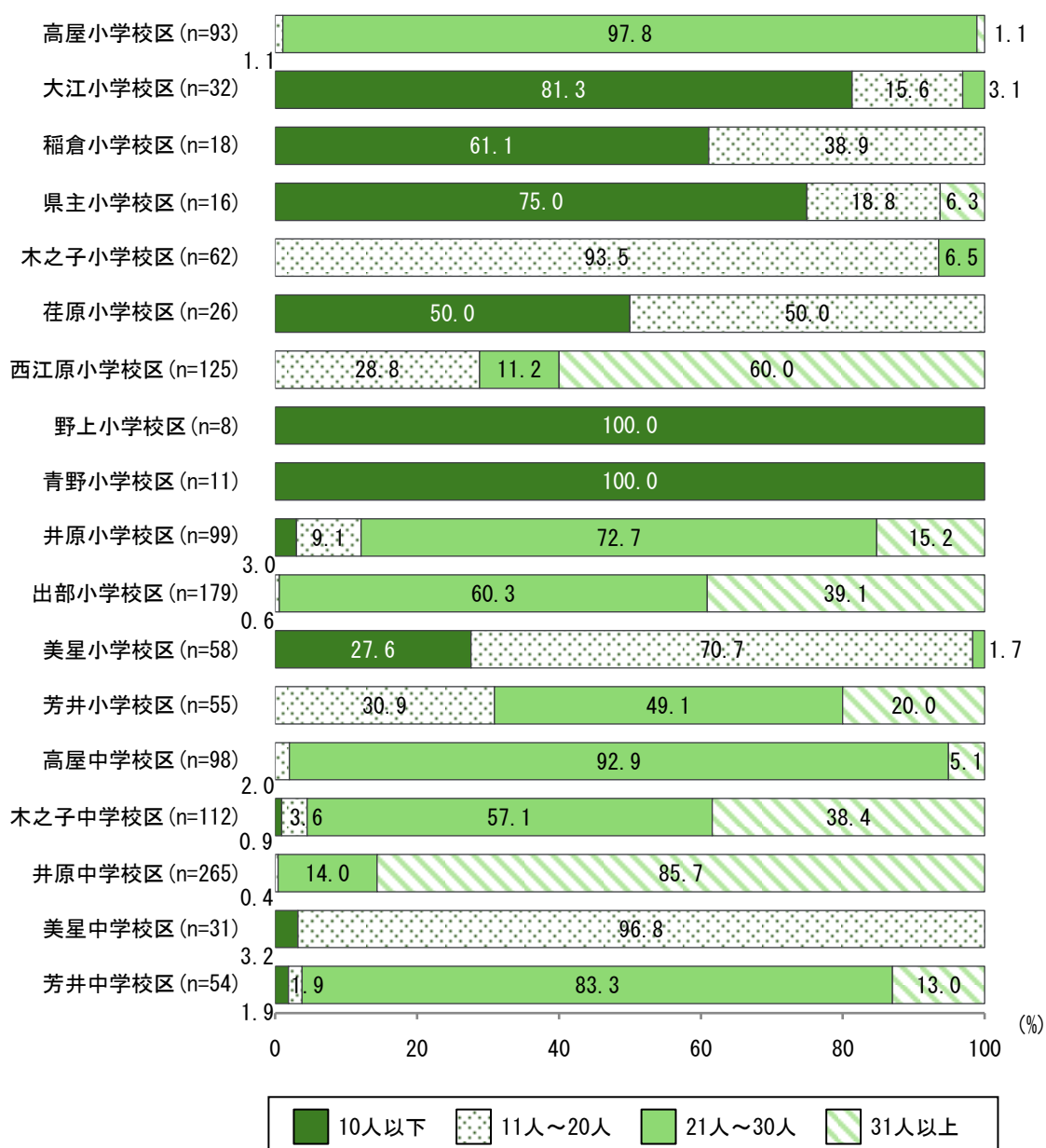
(3)学級の人数

問3 学級(クラス)の人数は何人ですか。(1つを選択)



学級の人数について、小学生では「21人~30人」との回答が40.7%と最も高く、次いで「11人~20人」(24.4%)、「31人以上」(22.1%)、「10人以下」(12.8%)の順となっている。中学生では「31人以上」との回答が50.4%と最も高く、次いで「21人~30人」(42.3%)、「11人~20人」(6.8%)、「10人以下」(0.5%)の順となっている。

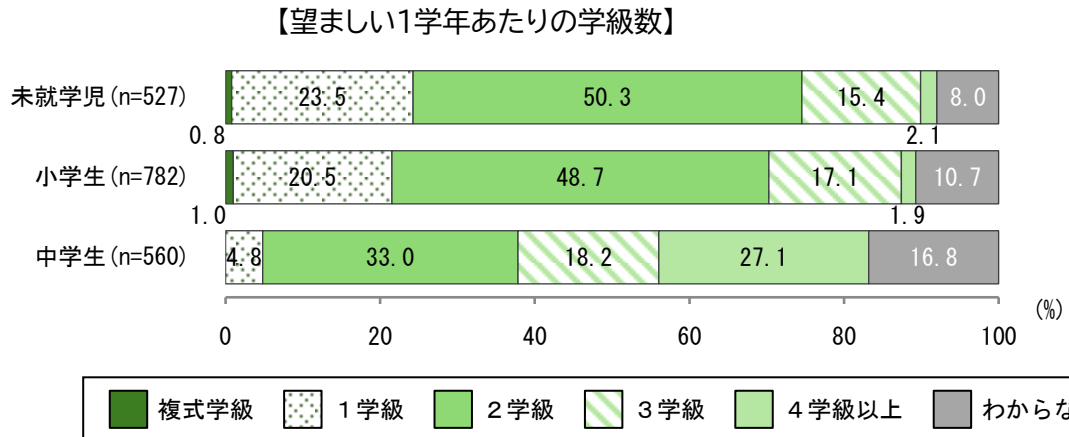
【学級の人数(学区別)】



2 望ましい学校規模

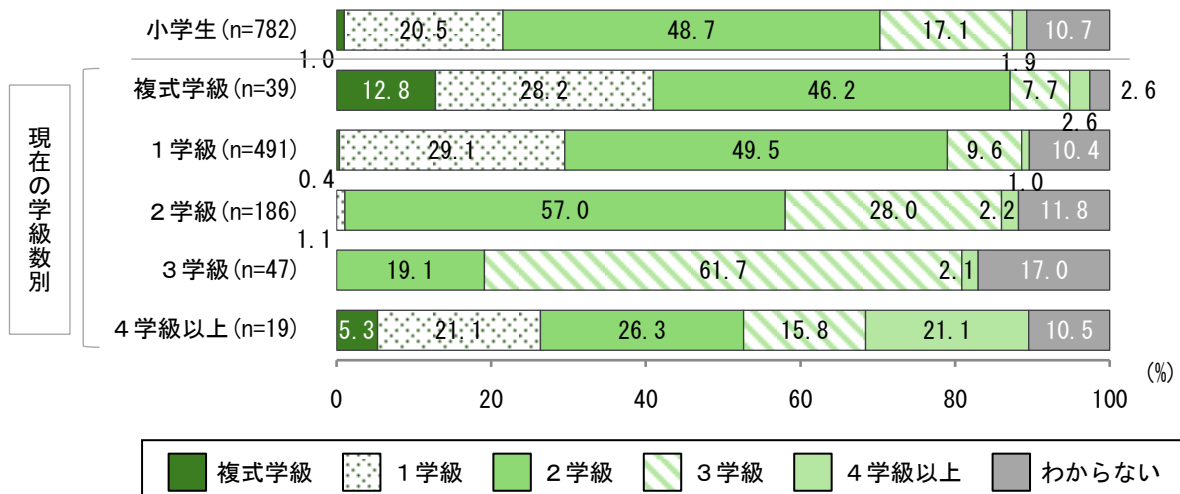
(1) 望ましい1学年あたりの学級数

問4 1学年あたりの学級(クラス)数はどの程度が望ましいと思いますか。(1つを選択)



望ましい1学年あたりの学級数について、未就学児では「2学級」との回答が50.3%と最も高く、次いで「1学級」(23.5%)、「3学級」(15.4%)などの順となっている。小学生では「2学級」との回答が48.7%と最も高く、次いで「1学級」(20.5%)、「3学級」(17.1%)などの順となっている。中学生では「2学級」との回答が33.0%と最も高く、次いで「4学級以上」(27.1%)、「3学級」(18.2%)などの順となっている。

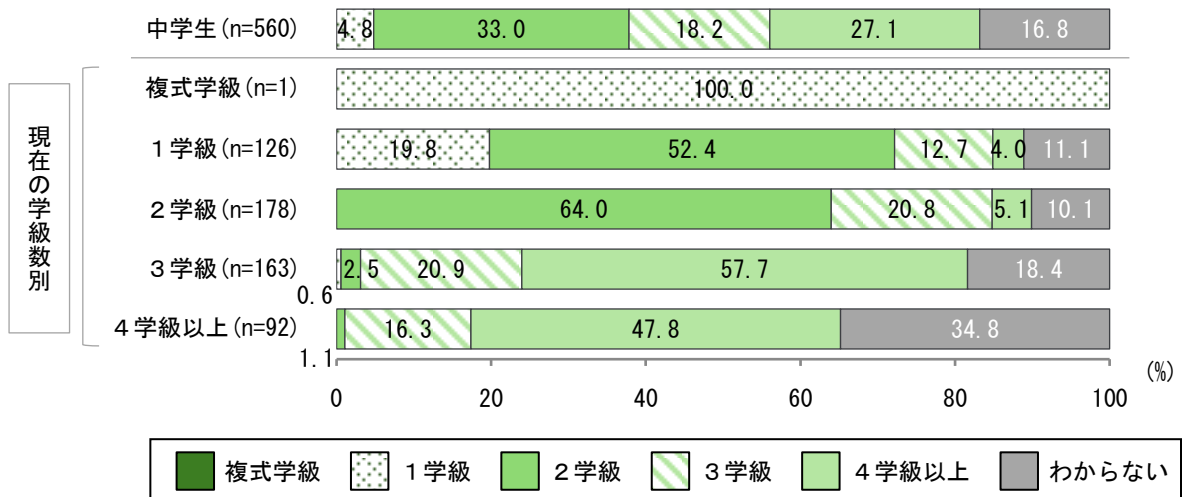
【望ましい1学年あたりの学級数(小学生・現在の学級別)】



小学生の現在の学級数別にみると、現在複式学級の方では「2学級」との回答が4割台後半、「1学級」との回答が2割台後半、現在1学級の方では「2学級」との回答が約5割、「1学級」との回答が約3割、現在2学級の方では「2学級」との回答が5割台後半、「3学級」との回答が2割台後半、現在3学級の方では「3学級」との回答が6割台前半と高くなっている。

※20人以下の回答者の回答傾向は記述しないこととする(以下同じ)。

【望ましい1学年あたりの学級数(中学生・現在の学級別)】

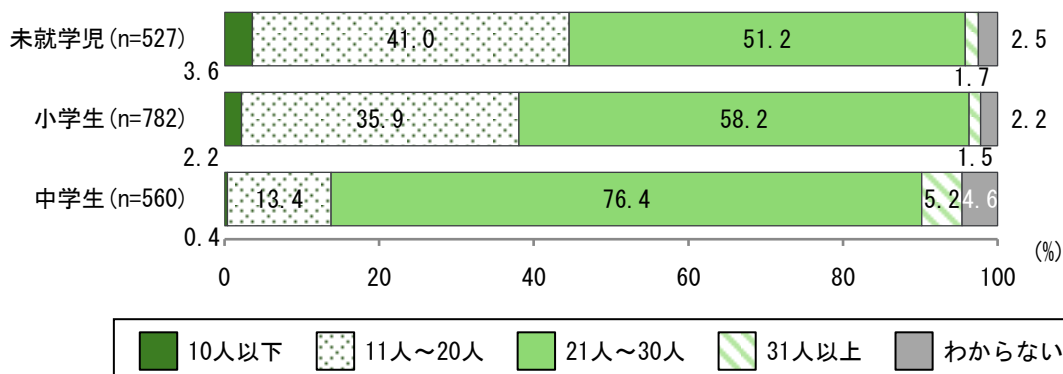


中学生の現在の学級数別にみると、現在1学級の方では「2学級」との回答が5割前半、現在2学級の方では「2学級」との回答が6割前半、現在3学級の方では「4学級以上」との回答が5割後半、現在4学級以上の方では「4学級以上」との回答が4割後半と高くなっている。また、現在4学級以上の方では「わからない」との回答が3割台半ばと高くなっている。

(2)望ましい1学級あたりの人数

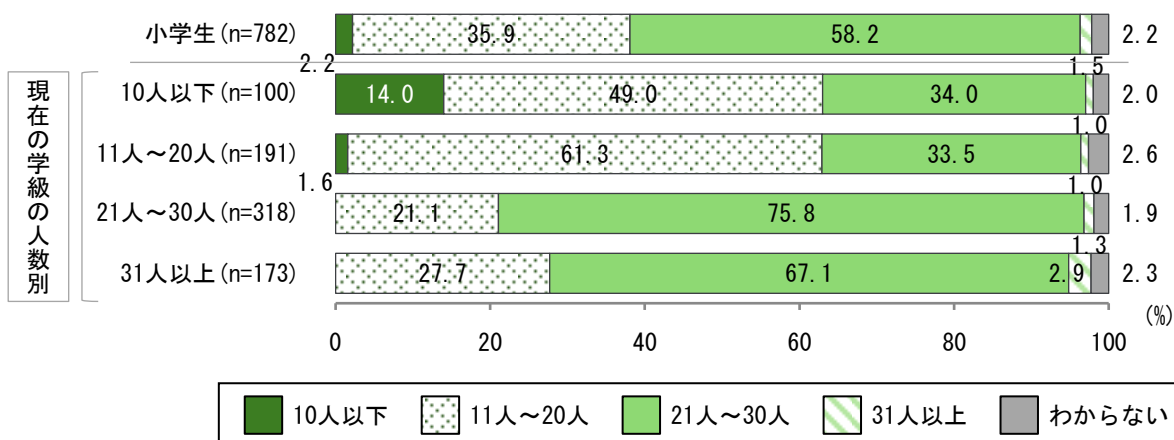
問5 1学級(クラス)あたりの人数はどの程度が望ましいと思いますか。(1つを選択)

【望ましい1学級あたりの人数(未就学児)】



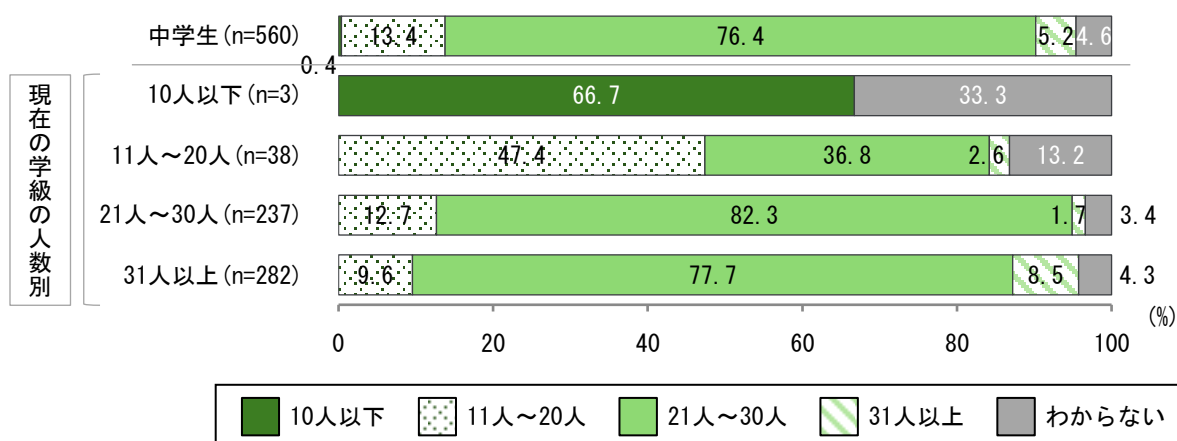
望ましい1学級あたりの人数について、未就学児では「21人~30人」との回答が51.2%と最も高く、次いで「11人~20人」(41.0%)などの順となっている。小学生では「21人~30人」との回答が58.2%と最も高く、次いで「11人~20人」(35.9%)などの順となっている。中学生では「21人~30人」との回答が76.4%と最も高く、次いで「11人~20人」(13.4%)などの順となっている。

【望ましい1学級あたりの人数(小学生・現在の学級的人数別)】



小学生の現在の学級的人数別にみると、現在の学級人数が10人以下の方では「11人~20人」との回答が4割台後半、「21人~30人」との回答が3割台前半、現在の学級人数が11人~20人の方では「11人~20人」との回答が6割台前半、「21人~30人」との回答が3割台前半、現在の学級人数が21人~30人の方では「21人~30人」との回答が7割台半ば、現在の学級人数が31人以上の方では「21人~30人」との回答が6割台後半と高くなっている。

【望ましい1学級あたりの人数(中学生・現在の学級的人数別)】

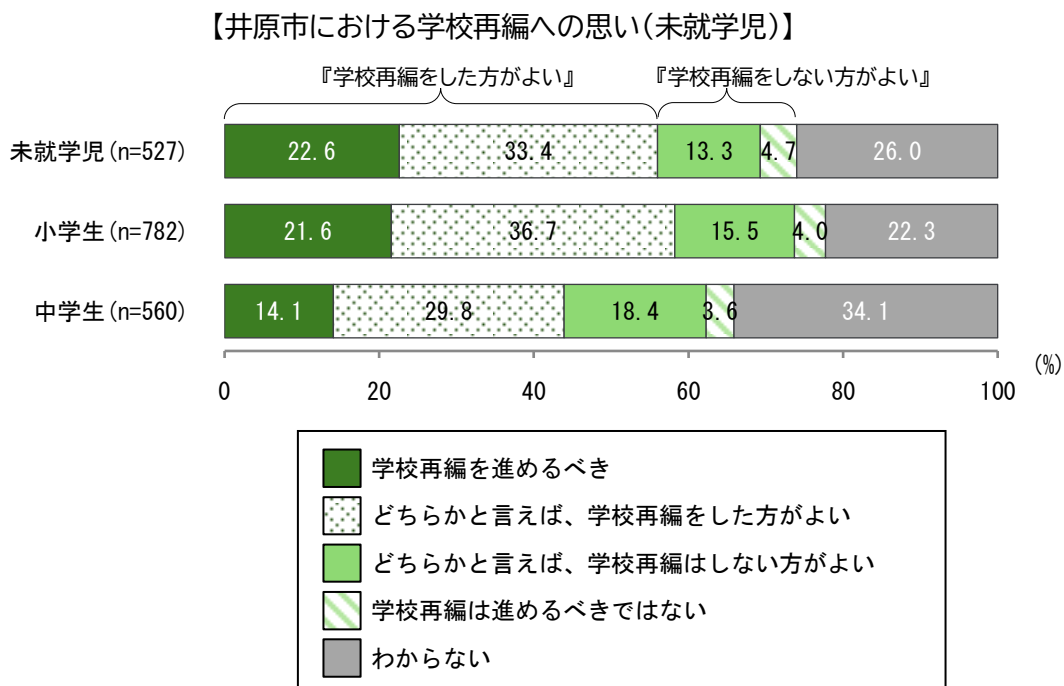


中学生の現在の学級的人数別にみると、現在の学級人数が11人～20人の方では「11人～20人」との回答が4割台後半、「21人～30人」との回答が3割台後半、現在の学級人数が21人～30人の方では「21人～30人」との回答が8割台後半、現在の学級人数が31人以上の方では「21人～30人」との回答が7割台後半と高くなっている。

4 学校再編に対する考え方

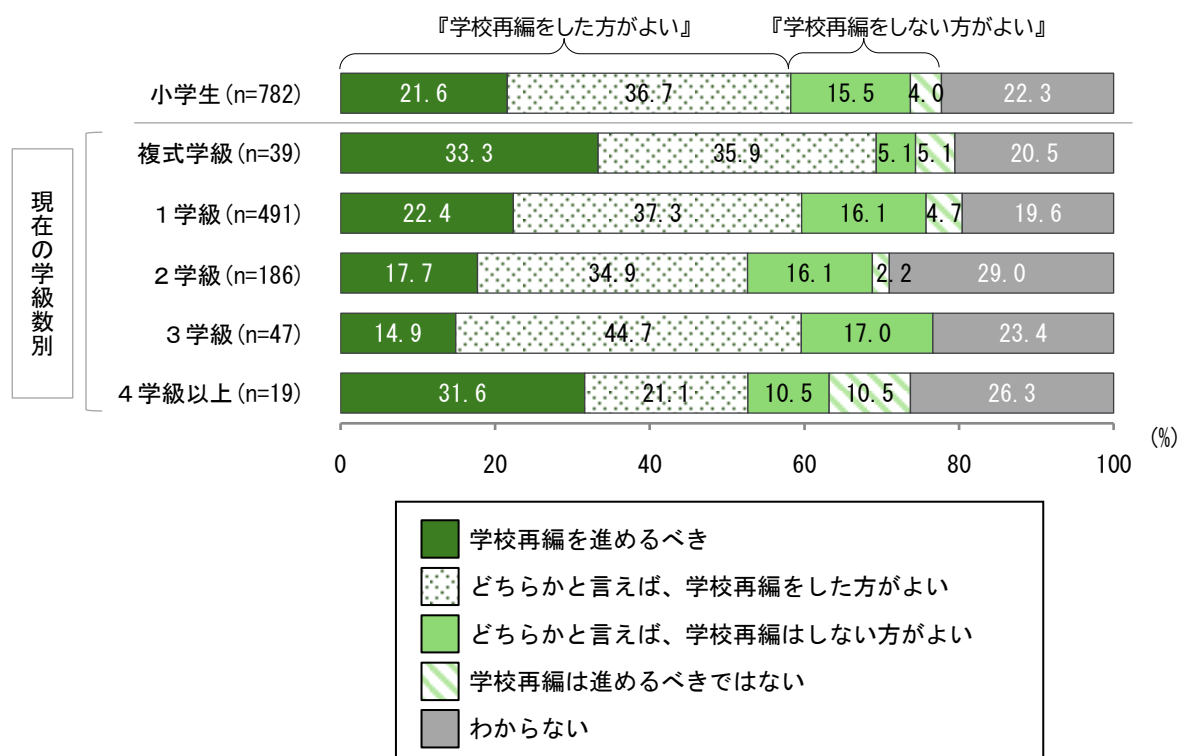
(1)井原市における学校再編への思い

問7 井原市における一定以上の学校規模を確保するための小・中学校の再編について、どのように思いますか。(1つを選択)



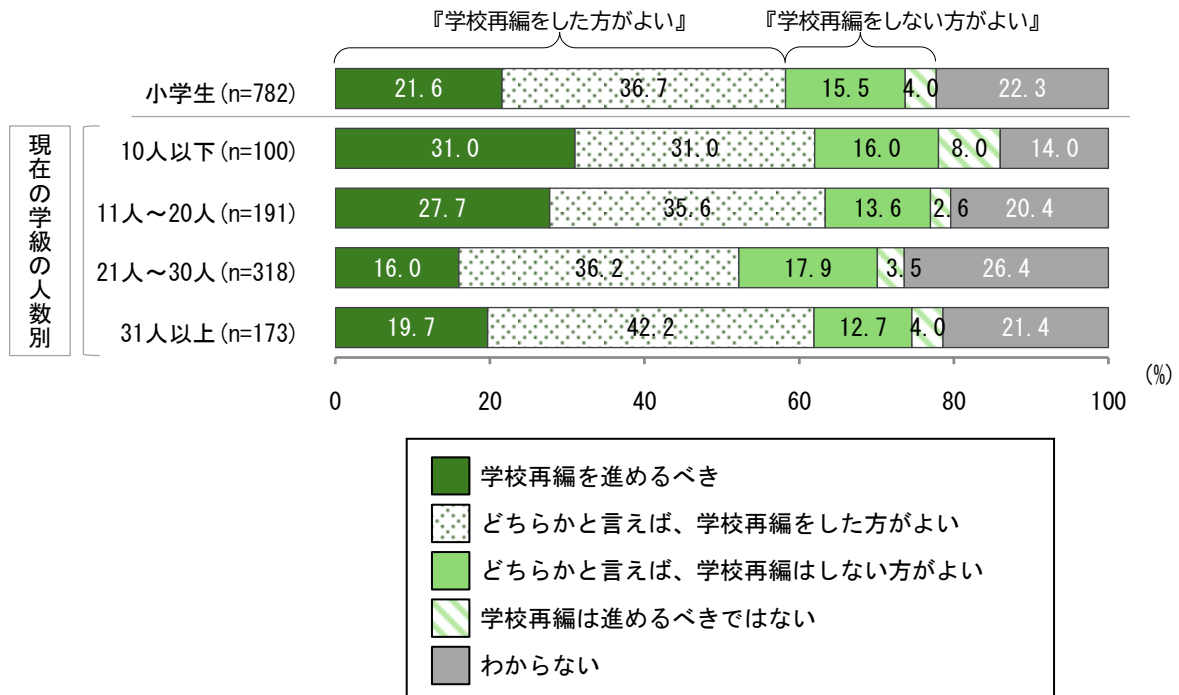
井原市における学校再編への思いについて、未就学児では『学校再編をした方がよい』との回答が56.0%、『学校再編をしない方がよい』との回答が18.0%、「わからない」との回答が26.0%となっている。小学生では『学校再編をした方がよい』との回答が58.3%、『学校再編をしない方がよい』との回答が19.4%、「わからない」との回答が22.3%となっている。中学生では『学校再編をした方がよい』との回答が43.9%、『学校再編をしない方がよい』との回答が22.0%、「わからない」との回答が34.1%となっている。

【井原市における学校再編への思い(小学生・現在の学級数別)】



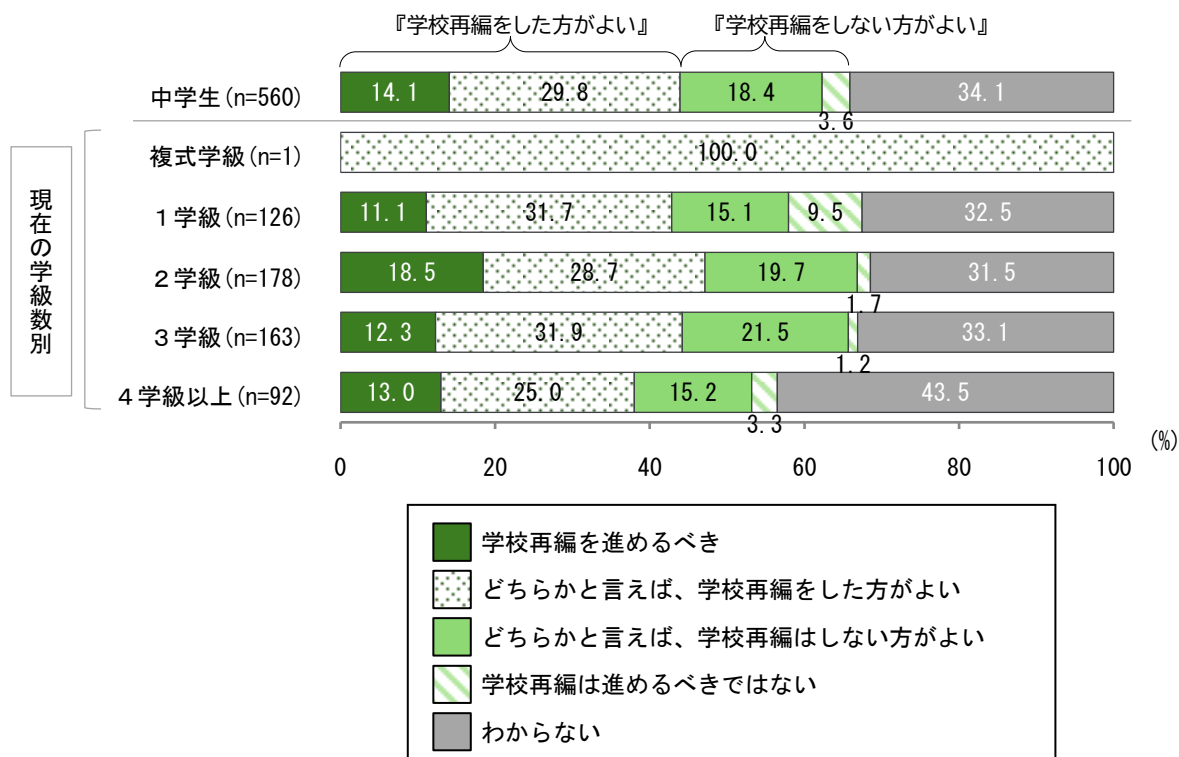
小学生の現在の学級数別にみると、現在複式学級の方では、『学校再編をした方がよい』との回答が約7割、『学校再編をしない方がよい』との回答が約1割、現在1学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が約6割、『学校再編をしない方がよい』との回答が約2割、現在2学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が5割前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が1割後半、現在3学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が約6割、『学校再編をしない方がよい』との回答が1割後半となっている。

【井原市における学校再編への思い(小学生・現在の学級の人数別)】



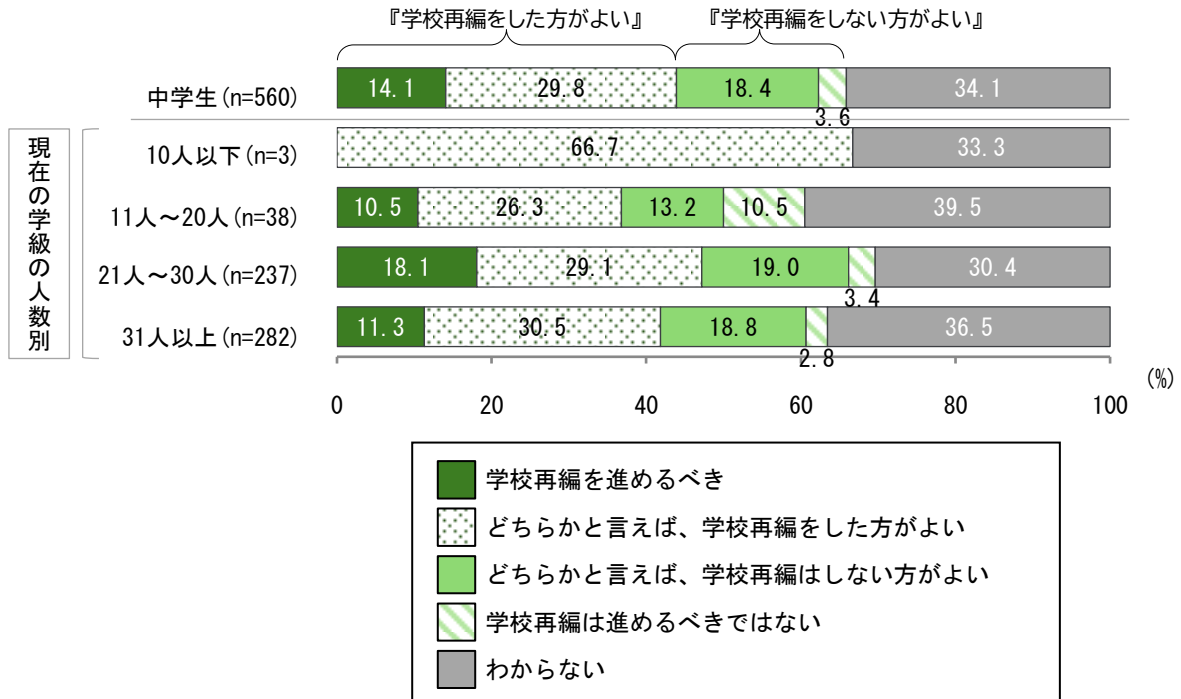
小学生の現在の学級の人数別にみると、現在の学級人数が10人以下の方では、『学校再編をした方がよい』との回答が6割台前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半、現在の学級人数が11人～20人の方では『学校再編をした方がよい』との回答が6割台前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が1割台後半、現在の学級人数が21人～30人の方では『学校再編をした方がよい』との回答が5割台前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半、現在の学級人数が31人以上の方では『学校再編をした方がよい』との回答が6割台前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が1割台後半となっている。

【井原市における学校再編への思い(中学生・現在の学級数別)】



現在の学級数別にみると、現在1学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が4割台前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台半ば、現在2学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が4割台後半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半、現在3学級の方では『学校再編をした方がよい』との回答が4割台半ば、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半、現在4学級以上の方では『学校再編をした方がよい』との回答が3割台後半、『学校再編をしない方がよい』との回答が1割台後半となっている。

【井原市における学校再編への思い(中学生・現在の学級の人数別)】



現在の学級の人数別にみると、現在の学級人数が11人～20人の方では『学校再編をした方がよい』との回答が3割台後半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半、現在の学級人数が21人～30人の方では『学校再編をした方がよい』との回答が4割台後半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半、現在の学級人数が31人以上の方では『学校再編をした方がよい』との回答が4割台前半、『学校再編をしない方がよい』との回答が2割台前半となっている。

(2)学校再編をした方がよい理由

問8-1 「学校再編を進めるべき」、または「どちらかと言えば、学校再編をした方がよい」を選択した理由として、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。(3つまで選択)

【学校再編をした方がよい理由】

	子どもを育成できる	幅広い人間関係の中で子どもの表現力やコミュニケーション能力、協調性、たくましさなどを育成できる	切磋琢磨し合える環境になる	多様な考えや価値観に触れ、学び合い、大きな集団の中で	人間関係が広がる	子どもが増え、人間関係が広がる	運動会や合唱などの学校の幅が広がる	少子化のためやむを得ない	形態により学習効果が向上する	習熟度別学習やグループ学習など、子どもにあった多様な学習形態により学習効果が向上する	減される	PTA活動等において、保護者1人あたりの負担が軽減される	外国語教育やICT教育など	教育の専門性向上が望める（免許外指導の解消、専門家による教育の専門性向上）	その他
未就学児 n= 295	66.1	49.8	46.8	33.2	29.2	19.0	20.3	8.8	2.4						
小学生 n= 456	67.1	52.0	40.1	30.3	29.6	20.2	20.4	9.6	3.5						
中学生 n= 246	63.8	51.6	37.4	27.6	32.1	25.2	17.9	17.9	1.2						

学校再編をした方がよい理由について、未就学児・小学生・中学生ともに「幅広い人間関係の中で子どもたちの表現力やコミュニケーション能力、協調性、たくましさなどを育成できる」（未就学児 66.1%、小学生 67.1%、中学生 63.8%）との回答が最も高く、次いで「多様な考えや価値観に触れ、学び合い、大きな集団の中で切磋琢磨し合える環境になる」（未就学児 49.8%、小学生 52.0%、中学生 51.6%）、「子どもの友達が増え、人間関係が広がる」（未就学児 46.8%、小学生 40.1%、中学生 37.4%）となっている。4位は未就学児・小学生では「運動会や合唱などの学校行事等、集団での活動の幅が広がる」（未就学児 33.2%、小学生 30.3%）、中学生では「少子化のためやむを得ない」（32.1%）となっている。

(3)学校再編をしない方がよい理由

問8-2 「どちらかと言えば、学校再編はしない方がよい」、または「学校再編は進めるべきではない」を選択した理由として、あなたの考えに近い選択肢を選んでください。

(3つまで選択)

【学校再編をしない方がよい理由】

	学 時 間 が 学 校 ま で の 距 離 や 通	き 届 き も た ち に 教 員 の 目 が 行	も 新 た な 心 理 的 負 担 が 増 え る	地 域 の 衰 退 に つ な が る	余 館 教 材 ・ 特 別 教 具 や 運 動 場 ・ 体 育	機 体 動 的 な 学 習 や 校 外 学 習 を	会 発 表 な ど 、 個 々 の 活 躍 の 機	が 異 な る 学 年 と の 交 流 の 機 会	そ の 他
未就学児 n= 95	80.0	53.7	33.7	27.4	11.6	14.7	10.5	9.5	6.3
小学生 n= 152	82.2	53.9	38.2	25.7	13.8	10.5	11.2	8.6	3.3
中学生 n= 123	79.7	55.3	26.8	29.3	22.0	17.9	7.3	1.6	2.4

(%)

学校再編をしない方がよい理由について、未就学児・小学生・中学生ともに「家から学校までの距離や通学時間が増える」（未就学児 80.0%、小学生 82.2%、中学生 79.7%）との回答が最も高く、次いで「子どもたちに教員の目が行き届きにくくなる」（未就学児 53.7%、小学生 53.9%、中学生 55.3%）となっている。3位は未就学児・小学生では「新たな人間関係により子どもの心理的負担が増える」（未就学児 33.7%、小学生 38.2%）、中学生では「地域の衰退につながる」（29.3%）となっている。

(4)学校再編の検討に必要な配慮

問9 学校再編を検討するにあたり、特にどのような点に配慮が必要だと思いますか。

(3つまで選択)

【学校再編の検討に必要な配慮】

		子どものための環境変化への対応（人間関係づくり、心身の負担軽減、いじめの未然防止や不登校の予防）	通学（時間・距離・方法）と安全確保に関する対応	一人の子どもが複数回の再編を経験しないようにする	保護者・地域住民への十分な説明と協議	学校施設・設備の整備・充実	一定規模の集団が確保できるようにする	放課後児童クラブの利用者への配慮	学校再編で学校が空き活用策になつた場合の有効活用策	地域交流など	地域の拠点機能の継承（防災、文化・スポーツ活動、防
未就学児 n= 527	75.7	71.2	28.5	18.8	22.0	18.8	23.1	9.5	4.9		
小学生 n= 782	77.2	73.0	21.7	23.3	20.1	17.4	17.0	8.4	5.2		
中学生 n= 560	76.3	73.6	20.2	20.9	17.7	16.4	5.2	13.0	9.5		
	通学区域の弾力的運用	その他									
未就学児 n= 527	5.5	1.1									
小学生 n= 782	5.2	1.4									
中学生 n= 560	8.6	0.2									

学校再編の検討に必要な配慮について、未就学児・小学生・中学生ともに「子どもにとっての環境変化への対応（人間関係づくり、心身の負担軽減、いじめの未然防止や不登校の予防）」（未就学児 75.7%、小学生 77.2%、中学生 76.3%）との回答が最も高く、次いで「通学（時間・距離・方法）と安全確保に関する対応」（未就学児 71.2%、小学生 73.0%、中学生 73.6%）となっている。3位は未就学児では「一人の子どもが複数回の再編を経験しないようにする」（28.5%）、小学生・中学生では「保護者・地域住民への十分な説明と協議」（小学生 23.3%、中学生 20.9%）となっている。

5 通学方法について

(1) 学校再編により通学距離が伸びた場合の通学方法

問 10 通学方法について、公共で対応する場合の参考にさせていただくためお伺いします。学校再編により、仮に、ご自身のお子様の通学距離が伸びたとすると、どのような通学方法が適当だと思えますか。(適当と思うものすべてを選択)

【学校再編により通学距離が伸びた場合の通学方法】

		(%)				
	スクールバス	徒歩	自転車	保護者送迎	公共交通機関	その他
未就学児 n= 527	85.0	24.9	-	27.7	14.6	2.3
小学生 n= 782	87.1	22.0	-	15.5	14.3	1.3
中学生 n= 560	72.9	13.9	59.1	8.8	16.4	0.5

学校再編により通学距離が伸びた場合の通学方法について、未就学児・小学生・中学生ともに「スクールバス」(未就学児 85.0%、小学生 87.1%、中学生 72.9%)との回答が最も高くなっている。未就学児では2位は「保護者送迎」(27.7%) 3位は「徒歩」(24.9%)となっている。小学生では2位は「徒歩」(22.0%)、3位は「保護者送迎」(15.5%)となっている。中学生では2位は「自転車」(59.1%)、3位は「公共交通機関」(16.4%)となっている。